

西根中が初優勝を飾る 計算通りの展開で逆転

伊藤 悠大
〔タイム〕 9分59秒



きつい練習も楽しい雰囲気でも乗り越え、盛岡市内一周継走の頃と比べ、本番と同じような緊張感を持って練習できたことが優勝につながった。

5区



澤尻 月護
〔タイム〕 10分16秒

1位でアンカーに渡したかったが、できなくて悔しい。残り1*で向かい風に負けて、ペースが落ちてしまった。

第33回県中学校駅伝競走大会(男子：6区間18.6*、女子：5区間12.8*)は10月5日、花巻市日居城野運動公園で行われ、西根中(男子)が初優勝を果たしました。

4月の盛岡市内一周継走、9月の岩手地区中駅伝に引き続きの逆転劇で、最後まで優勝チームが分からない混戦のレースを制しました。

優勝した西根中は12月16日(日)、滋賀県・希望が丘文化公園で開かれる全国中学校駅伝大会に出場します。

6区

2区



工藤 信太郎
〔タイム〕 9分58秒

目標にしていた9分台で走ることができた。今まで先輩の足を引っ張ることが多かったので、県大会で挽回できてうれしい。

1区

渡辺 太河
〔タイム〕 10分9秒



途中までは順調だったが、ラスト500mでペースが落ちてしまっていて悔しい。でも、チームとして勝つたのでよかった。

4区



遠藤 樹
〔タイム〕 10分10秒

目標の10分を達成できなかったので、次の大会では目標タイムを上回るように、練習を積んでいきたい。

ペースどおりに走れば最後は優勝できる自信があった。このチームのキャプテンでよかった。

里舘 陸
〔タイム〕 10分3秒



右手を高く突き上げ、トップでゴールを切ったのは西根中のアンカー伊藤悠大(3年)選手。激しく首位が入れ替わるレースを制し、見事初優勝を飾りました。

歓喜の瞬間からさかのぼること約1時間。11時50分に男子のレースがスタートしました。西根中の1走は盛岡市内一周継走、岩手地区中駅伝と同じ、渡辺太河(3年)選手。各学校のエース級がそろって区間を自分のペースを守ることに集中し、走り切りました。

〔1区完走時の順位とタイム〕

- ①見前中 9分22秒
- ②湯口中 9分32秒
- ③雲石中 9分34秒
- ④西根中 10分9秒 (1位との差47秒)

渡辺選手からタスキを受け取ったのは工藤信太郎(2年)選手。左腕には500mほどの通過タイムを記し、レースに臨みま

した。「オーバーペースでスタートしてしまっただけで、少し焦りがあったかもしれない」と振り返るも、自己ベストを17秒更新する会心の走りを見せ、9人をこぼす抜きをたたき出しました。

〔2区完走時の順位とタイム〕

- ①北上南中 19分27秒
- ②見前中 19分30秒
- ③雲石中 19分41秒

以内に出場資格が与えられる。大会は10月31日に福島県で開催。出場も視野に入る4位へと順位を上げました。

〔4区完走時の順位とタイム〕

- ①北陵中 40分5秒
- ②見前中 40分5秒
- ③福岡中 40分17秒
- ④西根中 40分20秒 (1位との差15秒)

5走の澤尻月護(3年)選手が4走からタスキを受けた時点で、1位との差は15秒。「5走と6走の2人で30秒差であれば逆転可能だと思っていた」と高橋監督が想定する展開でスタートしました。

澤尻選手は、2人を抜く走りを見せ、1位との差3秒でアンカーの伊藤選手へタスキを託しました。

〔5区完走時の順位とタイム〕

- ①北陵中 50分33秒
- ②西根中 50分36秒 (1位との差3秒)
- ③見前中 50分43秒

高橋監督が「冷静で、どんな展開になっても設定タイムで走ることが練習からできている」と評価する6走の伊藤選手は、トラックを出た400m付近で北陵中を逆転。「向かい風でありペースは上がらなかつたが、2*通過地点で優勝を確

⑩西根中 20分7秒 (1位との差40秒)

3走は、チームのキャプテンを任せられる里舘陸(3年)選手。1年生のときから同大会に出場し、高橋友恵監督から「精神的に強いので、1、2区で遅れをとっても立て直してくれる」と信頼を置かれています。

2区からの勢いそのままに順位を上げ、1位との差19秒と大きく詰めました。

〔3区完走時の順位とタイム〕

- ①北陵中 29分51秒
- ②見前中 29分52秒
- ③福岡中 29分58秒
- ④西根中 30分10秒 (1位との差19秒)

メンバーの中で唯一、盛岡市内一周継走は全5区間に出場できなかった遠藤樹(2年)選手が、4区を任せられました。

盛岡市内一周継走に出場できなかった悔しさをばねに、先輩の背中を追い掛け練習に励み、県大会出場を果たしました。

「6人目のレベルも上がり、出場した選手のタイムがみんなと同じくらいになった」と里舘キャプテンは優勝のキーマンに挙げます。

ラストで3位争いに敗れてしまったものの、区間賞を受賞する走りを見せ、東北大会(◎)県大会3位

信した」と伊藤選手が話す通り、福岡中の追い上げを許さず、2位と30秒差をつけて全国大会の切符を勝ち取りました。

〔レース終了時の順位とタイム〕

- ①西根中 1時間0分35秒
- ②福岡中 1時間1分5秒
- ③北陵中 1時間1分14秒

6人の持ちタイムはあまり変わらず、エース不在といわれている中、全員が高いレベルで隙のないチームとしての走りを見せました。

「ペースを守り、いつも通りのタイムが出せれば優勝できる」と選手全員が信じて走り抜き、順位を落とすことなく頂点へと駆け上がりました。タイムは1時間0分35秒。設定していた59分30秒には届きませんが、理想通りのレースを展開しました。

安定した走りの根底にあるのは練習で行うペース走。「春先は外周(800m)を3分で走るのも苦しい感じだったが、今では2分30秒前半で回れるようになった」と高橋監督は選手の成長をたたえます。選手は「もっと速く走りたい」「設定タイムより遅くて悔しい」と優勝に満足する選手はなく「これからも練習を重ね、東北大会、全国大会では自分たちの走りをしてきたい」と士気を高めていました。